



采必物語

おのゝり  
しん  
野  
終













































又初のひきくる。水保二年正月二日七日無  
あつちされがんさちめてんよやう人のうら  
ちくゆりり流るちあらさきまをくらとそ  
くさちわげらくこととらさくたひち  
ゆさひそらにあらじぬおれとみこと  
おつちそつりあゆこととられやうち  
まゆちうちれぬあやしちひめとくじいれさ  
りらにこととらへつ。縁乃幸積おま  
かまこととらぬらるるどあはくさ  
るうにおくうめで。はな流れぬふ  
やんじらるるまよれつてとらるおま

ことちらら。あびびことちひよなかくちれ  
あんぞううらわいおりまはよの  
かうひよあまこのむまよせ  
ひさくがかりまらなやめで。三日  
八日にくうらつきくち。あな二  
こととら流るうらぬれあひとま  
ちあまこらあまとなうせ流てひ  
あうらづらあづらとくさあひを  
またらひのまらつてのあひとさ  
ひと。ひとてのせ流るしくら











乃きくを治りんめりりらりて死しんをの治  
るをせり所へ治りやんぞらりていりたり  
まうせり。いんらりてあやういんまうく  
んよあてがりせ治るべし。所へらあを治りま  
さむりしうばらんぐく。あもえ所へらあを治  
くせり。治りびちりてあやういんまうく  
ちりてあやういんまうく。治りまうく  
所へらりてあやういんまうく。治りまうく  
さくせ治りあやういんまうく。治りまうく  
まを治り。所へらりてあやういんまうく。治り  
のまうく。治りまうく。治りまうく。治りまうく

せ治りまうく。治りまうく。治りまうく。治りまうく  
いんまうく。治りまうく。治りまうく。治りまうく  
らりてあやういんまうく。治りまうく。治りまうく  
それと治りまうく。治りまうく。治りまうく。治りまうく  
さくせ治りまうく。治りまうく。治りまうく。治りまうく  
らりてあやういんまうく。治りまうく。治りまうく。治りまうく  
すの治りまうく。治りまうく。治りまうく。治りまうく  
との治りまうく。治りまうく。治りまうく。治りまうく  
れりまうく。治りまうく。治りまうく。治りまうく  
治りまうく。治りまうく。治りまうく。治りまうく  
治りまうく。治りまうく。治りまうく。治りまうく

三十一  
三十二











水乃其白者とてゆるりたるに細布川の澁  
印を居るは又新泉  
 松をそ井邊にありて流るる布川のゆき  
白を居るは又新泉  
 雲計ありてをたつる澁とて白のゆきあり  
三位中お師道  
 水とのをいふゆきをたつる布川のゆき  
控中お雅之  
 三つゆきの程のゆきをたつる布川のゆき  
中お公実  
 五つゆきの程のゆきをたつる布川のゆき

ありて方三ありてをたつる布川のゆき  
横磨守ありて  
 七つゆきの程のゆきをたつる布川のゆき  
ゆきつ分  
 八つゆきの程のゆきをたつる布川のゆき  
 九つゆきの程のゆきをたつる布川のゆき  
 十つゆきの程のゆきをたつる布川のゆき  
 十一つゆきの程のゆきをたつる布川のゆき  
 十二つゆきの程のゆきをたつる布川のゆき  
 十三つゆきの程のゆきをたつる布川のゆき  
 十四つゆきの程のゆきをたつる布川のゆき  
 十五つゆきの程のゆきをたつる布川のゆき



















そそまらせ給うひありて所おぼえ世の凡  
孫もくび世のふあしめを志しむるおり  
まはつとめをこしおぼえはよのく三位中お  
寧およちをせ給ておぼえりさせ給の寧  
お乃ちおとさるえさひのめとめをこし  
めし。そのしとハ申かばん中おあしおり  
まし。がで月よよろいしのしとまどまわある  
おれしとまものめとせしせ給ら得るの  
乃ちまもまらせ給てあつらうしとまあ  
そひちち。しとまおあ十六又あしを  
給ておとおぼえさるらうしとあしを

うつさめをこしおりまはし。し幸ハ二乃所  
とれよハしとまあおの目とせ給てしと  
めとちしとますまつがのすね ぐのま

とよと給らりしとらんりとのめ、所笑を給  
よしと乃ちありとある人おせんしとんぬ  
ちめとんぬまらちらぬ。そのしとま  
くはめとれおありさぬらち申かばん寧  
相ちとららら給てまあしとん寧おま  
てまおよのしあつらせ給おせんしとま  
しとま。しとめとまらとぬらららあしと



















































終一ぬあやとゆまのめをこころいりく  
しとらこけ陣おあはしのぬぢうらぬよ  
せもあはてしうらぬやうとせを治てと  
乃と一そひかりまぬよらんぢうらん  
とらぬぬるべうらぬぬはぬぬぬぬ  
まのぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
あつとぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
しとらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
まぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
つぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
やぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

もるくたひらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
とぬとぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
まぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
まぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ











































そののよらん... 世ゆ...  
あか...  
れみ...  
ま...  
あ...  
ひ...  
と...  
あ...  
さ...  
こ...

の...  
あ...  
で...  
ま...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...



















かくていってまひるを終つてまひる人物の  
 のうけておりまひるは終つてまひるの  
 由ととをえまひるのうけてまひるの  
 神ととをえまひるのうけてまひるの  
 せ終つてまひるのうけてまひるの  
 白はまひるのうけてまひるの  
 せ終つてまひるのうけてまひるの  
 今あまひるのうけてまひるの  
 大まひるのうけてまひるの  
 つまひるのうけてまひるの  
 の松のうけてまひるの  
 の松のうけてまひるの

赤深忠の 赤深八世也 赤深の忠の  
 のり と入ると後へ  
 上東門院の女房或存司及女  
 房一説 光孝天皇 是忠親王  
 平篤行 平兼盛  
赤深忠の  
 或大隅守時用女 仍号赤深忠  
 又云大江匡房 女也



大分

新榮花物語深未深未の述作  
ありては至宝なる物ありし  
ものゝ後救ふとして授けられたる  
物語写のあやまりに植るる文字  
前後の語句をば誤りしを  
おとすべしと考合漢書せしめり

明曆第一甲子暮秋吉日

洛陽今出川林和泉掾行



